

東京大学における コンテンツ獲得戦略

工学系研究科学位論文の
登録・公開を中心に

東京大学情報基盤センター 小山憲司



目次

- 東京大学学術機関リポジトリの概要
- これまでの取り組み
- コンテンツ獲得戦略
- 工学系研究科における学位論文の電子的公開の制度化
- 今後の課題



東京大学学術機関リポジトリの概要



- UT Repository
- 2006年4月1日公開
- 登録コンテンツ数 1,610件
(2006年5月14日現在)
 - 学術雑誌論文 38件
 - 学位論文 121件
 - 紀要 1,449件
 - 図書、図書の一部 1件
 - 教育資料 1件

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

3

東京大学学術機関リポジトリの概要2



- ソフトウェア
 - SUSE Linux
 - DSpace1.3.2日本語化パッケージ等
- ハードウェア
 - HP Proliant DL380G4
 - 2GBメモリー
 - 1TBディスク
 - バックアップ装置等

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

4



これまでの取り組み

- 2004年
 - NIIのIRP(学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト)に参加、EPrints2.3.3を利用して試行実験開始。
 - 図書館システム更新を控え、「東京大学における情報戦略について」を策定、この中で情報発信支援を実現するシステムとして、機関リポジトリを位置づける。
- 2005年
 - NIIのCSI事業に参加、機関リポジトリシステムの立ち上げと公開に向けて準備を開始。
 - 附属図書館研究開発室の下に、東京大学学術機関リポジトリ・プロジェクトを設置。



コンテンツ獲得戦略

- 初期登録
 - 協力を得やすい教員へのアプローチ
 - 電子化されたコンテンツを既に持っている(公開している)部局へのアプローチ
 - コンテンツの電子化に興味を持っている部局へのアプローチ
 - NIIからの電子データの提供
- 継続的収集・登録
 - 学位論文の電子的公開の制度化

コンテンツ獲得戦略の具体例1



- 協力を得やすい教員へのアプローチ
 - 総長(前附属図書館長)
 - 情報担当副学長
 - 附属図書館長
 - 情報基盤センター長 など

コンテンツ獲得戦略の具体例2



- 電子化されたコンテンツを既に持っている(公開している)部局へのアプローチ
 - 数理学研究科
 - Journal of Mathematical Sciences, the University of Tokyo
 - 経済学研究科
 - 日本経済国際共同研究センターDiscussion Papers (準備中)

コンテンツ獲得戦略の具体例3



- コンテンツの電子化に興味を持っている部局へのアプローチ
 - 工学系研究科電気系専攻
 - 過去の学位論文
 - 明治期の卒業論文(電子データあり)
 - 東洋文化研究所
 - 東洋文化研究所紀要

コンテンツ獲得戦略の具体例4



- NIIからの電子データの提供
 - 紀要電子化プロジェクトによる電子データの提供
 - 教育学系研究科・教育学部の紀要
 - 東京大学大学院教育学研究科紀要
 - 東京大学大学院教育学研究科教育行政学研究室紀要
 - 生涯学習・社会教育学研究
 - 学校臨床研究
 - ネットワーク：東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報
 - 科学研究費補助金データベース(KAKEN)からの電子データの提供

コンテンツ獲得戦略の具体例5



- 学位論文の電子的公開の制度化
 - 工学系研究科および情報理工学系研究科
 - 電気系専攻
 - 研究科全体
 - 新領域創成科学研究科(試験運用)

学位論文の電子的公開の制度化



- 工学系研究科および情報理工学系研究科(以下、工学系研究科)
 - 工学系研究科全体
 - 電気系2専攻および情報理工学系研究科電子情報学専攻(以下、電気系専攻)
- 新領域創成科学研究科(試験運用)

工学系研究科全体

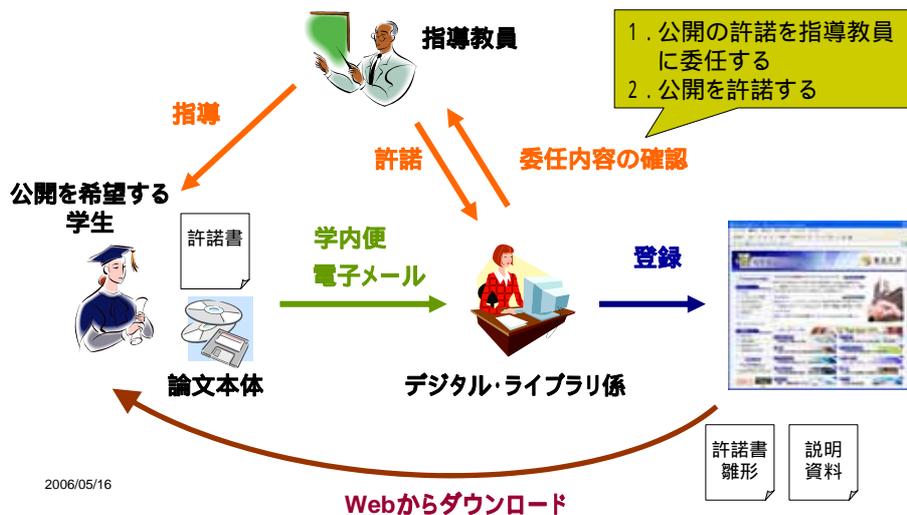
- 西郷附属図書館長による力添え。
- 研究科図書委員会を通じて、参加を呼びかけ。
- 専攻ごとに参加の可否を決定。
 - 参加(予定含む)14、不参加1、保留・未定2、その他2、回答なし4
 - 参加のうち、2005年度から実施は5専攻

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

13

学位論文の電子的公開のイメージ



2006/05/16

制度化にあたって考慮した点



- 柔軟な制度の構築
 - 公開の判断は、学生本人が行う。
 - 公開の判断を、指導教員に委任することもできる。
 - 公開時期を個々に設定することができる。
- 手続きの簡素化
 - 許諾書をWebに用意し、個々にダウンロードする。
 - 許諾書および論文ファイルは、学内便、電子メールなど、さまざまな方法で提出できる。
- 著作権処理
 - 学位論文の登録にあたって、著作権の確認を行う。
 - 学外からの問い合わせに対して、附属図書館が一次窓口となって対応する。

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

15

電気系専攻



- 岡部前情報基盤センター長による力添え。
- 過去の学位論文の電子化と並行して、**先行的に**その制度的枠組みを模索。
 - 学位論文提出時に許諾書を提出
 - 公開許諾は、基本的に指導教員に委任
 - 公開時期は、原則として提出から半年後
 - 論文ファイルの提出は、DSpaceの登録機能を試験的に利用

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

16

工学系研究科における学位論文の 電子的公開の制度化(まとめ)



研究科	対象	許諾手続き	電子データの提出
工学系研究科 全体	2005年度提出分 以降	学位審査後、許諾書と電子データをデジタル・ライブラリ係に提出(学内便、電子メールなど)	
電気系専攻	2005年度提出分 以降	学位申請時に、許諾書を教務担当に提出	DSpaceの登録機能
	過去の博士論文	電子メール、郵送などにより確認	図書室所蔵資料を電子化

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

17

今後の課題



- 学内他部局へのアプローチ
 - 教員との協力体制の確立
- 著作権処理
- メタデータのための研究成果の登録・公開
- コンテンツの保存機能の拡大
 - 公開範囲の取り扱い

2006/05/16

平成17年度CSI委託事業報告交流会

18

ご清聴ありがとうございました

